

キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 （日 数）	使 用 回 数	うどん こ 病	褐 斑 病	黒 さ び 病	黒 斑 病	白 さ び 病	灰 色 か び 病	べ と 疽 病	炭 疽 病	黒 星 病	斑 点 病	立 枯 病 （リ ゾク トニ ア菌）
カリグリーン溶	NC		*b	-	◎				◎						
クムラス顆水	M2		-	-					◎						
コロナFL	M2		-	-					◎						
インプレッションクリア	BM2		*d	-					◎						
アグロケア水	BM2		*d	-	◎				◎						
トップジンM水㊦	1		-	5		◎									
ベンレート水㊧	1		-	6		◎		◎	◎						
ピリカット乳	39		*b	6	◎				◎						
アフェットFL	7		*b	3	◎		◎		◎	◎					
カナメFL	7	劇	*b	3					◎						
バシタック水75	7		*b	5					◎						
パレード20FL	7		*b	3	◎	◎			◎						
アミスター20FL	11		*b	5					◎						
ストロビーFL	11		*b	3		◎		◎	◎						
ファンタジスタ顆水	11		*b	5					◎	◎					
メジャーFL	11		*b	3		◎		◎	◎						
アンビルFL	3		*b	7	◎				◎						
サブロール乳	3		*b	5					◎						
セーフガード乳	3		*b	5					◎						
チルト乳25	3		*b	3					◎						
トリフミン水	3		*b	5	◎				◎						
トリフミン乳	3		-	5					◎						
マネージ乳	3		*b	6			◎		◎						
ラリー乳	3		*b	5					◎						
ポリオキシシナL乳	19		*b	8	◎										
ポリオキシシナL溶	19		*b	8					◎						
サンヨール	M1		*c	8	◎	◎		◎	◎	◎					
エムダイファー水	M3		*b	8			サ		サ	◎	◎	◎			
ジマンダイセン水	M3		-	8			サ		サ	◎	◎	◎	◎		
ペンコゼブFL	M3		*d	8					◎						
ダコニール1000FL	M5		*d	6	◎	◎		◎	◎					◎	
ユニフォーム粒	4・11		*a	1					◎						
			*e	3											◎

㊦：チオファネートメチル含有剤 ㊧：ベノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での㊦は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。

\*a:定植前 \*b:発病初期 \*c:発生初期 \*d:発病前～発病初期 \*e:定植時又は生育期  
サ:さび病で登録(黒さび病と白さび病を含む)

キク (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ 類	ア ブ ラ ム シ 類	カ メ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ 類	オ オ タ バ コ ガ 類	ハ ダ ニ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	そ の 他 害 虫
スピノエース顆水	5		*d	2	◎				◎				◎			
コロマイト水	6		*d	2										◎		
コロマイト乳	6		-	2					◎					◎		
エスマルクDF	11A		*d	-									◎			
ゼンターリ顆水	11A		*d	-							◎					
デルフィン顆水	11A		*d	-									◎			
サフオイル乳	-		*a	-										◎		
マイコータル	-		*d	-	シ											
オリオン水40	1A	劇	*d	5		◎					◎		◎			
オンコル粒5	1A		*c	1	ナ											
			*e	3	◎											
ガゼット粒	1A	劇	*e	3	カ											
			*c			◎										◎
オルトラン水	1B		*d	5					マ				◎			
オルトラン粒	1B		*d	5	◎	◎			◎	◎	◎	◎				ネ
ガードホープ液	1B	劇	*e	2											ミ	セ
カルホス乳	1B	劇	*d	4					お	マ						
ジェイエース溶	1B		*d	5	◎	◎			マ				◎			
ジェイエース粒	1B		*d	5	◎	◎			マ							
スミチオン乳	1B		-	6		◎	◎			◎	◎	◎				フ
ネマキック粒	1B		*a	1												ダ
ネマトリンエース粒	1B		*a	1										ミ	◎	
マラソン乳	1B		*d	6						◎						
アグロスリン乳	3A	劇	*d	6		◎										
アージェント水	3A		*d	5	カ	◎								◎		
サイハロン乳	3A	劇	-	3	◎								◎			
テルスターFL	3A	劇	-	3	カ									◎		
トレボン乳	3A		*d	6		◎										
トレボンEW	3A		-	6		◎										
マブリック水20	3A	劇	*d	2		◎										
アクタラ顆溶*	4A		*d	6	カ			ウ		◎						
アドマイヤー1粒	4A		*e	5	◎	◎										
アドマイヤーFL	4A	劇	*d	5	施	施										
アルバリン顆溶																
スタークル顆溶	4A		*d	5		◎	◎	◎	◎							
アルバリン粒			*c	1		◎		◎	マ							
スタークル粒	4A		*e	5		◎										
ダントツ溶*	4A		*d	4	◎	◎	◎		◎							
ダントツ粒	4A		*d	4	◎	◎			マ							
ベストガード溶	4A		*d	4	カ	◎		◎								
ベストガード粒	4A		*d	4	カ	◎			マ							
モスピラン粒	4A		*c	1	カ					◎						
			*i	1	◎	◎										

キ  
ク

## キク (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ類	アブラムシ類	カメムシ類	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ヨトウムシ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	オオタバコガ	ハダニ類	ネグサレセンチュウ	その他害虫
トランスフォームFL	4C		*d	3	◎	◎										
アニキ乳	6		*d	6					マ		◎		◎			
アフーム乳	6		*d	5	◎											
コテツFL	13	劇	*d	2	み					◎	◎	◎	◎			ア
アタブロン乳	15		*d	5	ナ							◎				
カウンター乳	15		*d	5	◎								◎			
カスケード乳	15		*d	3	カ				マ							
マッチ乳	15		*d	5	◎				マ		◎					
マトリックFL	18		*d	4							◎					
ロムダンFL	18		*d	5							◎	◎	◎			
マイトコーネFL	20D		*f	1												ミ
サンマイルFL	21A	劇	-	2		◎									◎	
ハチハチ乳	21A	劇	*d	4	◎	◎			◎							
ピラニカEW	21A	劇	*d	1		◎									◎	
トルネードエースDF	22A		*d	4							◎	◎	◎			
ファイントリムDF	22A		*d	4							◎	◎	◎			
アクセルFL	22B		*d	6								◎	◎			
スターマイルFL	25A		*d	1											◎	
フェニックス顆水	28		*d	4							◎		◎			
ヨーバルFL	28		*d	3	◎						◎		◎			
ウララ50DF	29		*d	6		◎										
グレーシア乳	30		*d	2	◎						◎		◎	◎		
プロフレアSC	30		*d	3							◎		◎			
ファインセーフFL	34	劇	*d	2	◎											
サンヨール	-		*d	8		◎										◎
フーモン	-		1	-												◎
ビルク水	3A・10B	劇	-	1											◎	
アクセルキングFL	21A・22B	劇	*d	4	◎	◎			◎		◎		◎			

\*:使用方法は、散布だけでなく株元への灌注や灌水チューブを使用した灌注処理もある。但し適用害虫により登録が異なる場合があるため注意すること。

\*a:定植前 \*c:定植時 \*d:発生初期 \*e:生育期 \*f:開花前まで  
\*g:植付時 \*h:植付前 \*i:生育初期

ア:アワダチソウグンバイ ウ:ウスモンミドリカスミカメ(灌水チューブを用いた灌注処理) カ:ミカンキイロアザミウマ グ:ネグサレセンチュウ及びネコブセンチュウ コ:ネコブセンチュウ

シ:施設栽培でミカンキイロアザミウマ セ:ネグサレセンチュウ及びハガレセンチュウ ダ:ネダニ類 ナ:ミナミキイロアザミウマ ネ:ネキリムシ類 フ:フラーパラゾウムシ マ:マメハモグリバエ ミ:ナミハダニ

お:オンシツコナジラミ若齢幼虫

み:ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ

施:施設栽培

## キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒斑病・ 褐斑病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビーフロアブル 2000～3000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 サンヨール(乳) 500倍 ベンレート水和剤 2000～3000倍	最終摘心の20～30日 後から薬剤散布を開始 する。摘心直後に降雨 が多い場合には早めに 散布する。
黒さび病	生育期 (春秋)	1. 耐病性品種を栽培する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤# 400～600倍 マネーヅ乳剤● 500～1000倍	5～6月、秋の冷涼多 湿時に発生しやすい。 潜伏期間は10～15日 である。 # さび病での登録。 ●耐性菌を生じやすい ので連用しない。
白さび病	生育期 (梅雨期・ 晩秋)	1. 耐病性品種を栽培する。 2. 発病前から次の薬剤のいずれか を散布する。 サプロール乳剤●△ 1000～1500倍 サンヨール(乳) 500倍 ジマンダイセン水和剤# 400～600倍 ストロビーフロアブル● 2000～3000倍 トリフミン水和剤● 1000倍 ポリオキシシナール水溶剤 2500倍 マネーヅ乳剤● 500～1000倍	●耐性菌を生じやすい ので連用しない。 △サプロールは花芽分 化期前後の使用をさけ る。また、品種や作型 によっては新生葉に奇 形等を生じることがあ る。 # さび病での登録。
うどんこ 病	生育期 (秋～春)	・発生を見たら次の薬剤のいずれ かを散布する。 ピリカット乳剤 2000倍 ポリオキシシナール乳剤 500～1000倍 モレスタン水和剤*△ 2000～3000倍	初期防除を徹底す る。 *花き類・観葉植物で 登録 △モレスタンは高温時 や品種によって薬害が でることがある。
白絹病	挿芽前 ・定植前 生育期	・土壌消毒する(土壌消毒の項参 照)。 ・発病初期に、次の薬剤を株元に 灌注する。 リゾレックス水和剤* 500～1000倍 3L/m <sup>2</sup>	*花き類・観葉植物で 登録
半身萎凋 病	挿芽前 ・定植前 生育期	1. 挿穂は健全株から採穂する。 2. 土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 ・罹病株はただちに抜きとり、処 分する。	
ウイルス 病		1. モザイク症状などの異常のみら れる親株は更新する。 2. アブラムシ類の防除を徹底する。	

## キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
えそ病	生育期	1. 罹病株は除去する。 2. アザミウマ類を防除する。	T SWVによる。苗感染に注意する。 問題になっている病害虫の生態と防除の項参照。
アブラムシ類	定植時・生育期	1. 次の薬剤を植穴に施用する。 ガゼット粒剤 2 g/株 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 オリオン水和剤40 1000倍 サイハロン乳剤 4000倍 サンマイトフロアブル 1000倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍 3. 施設栽培ではくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	キクに寄生するアブラムシには、キクヒメヒゲナガアブラムシ、キククギケアブラムシ、モモアカアブラムシ、ワタアブラムシなどがある。 アブラムシはウイルス病を媒介するので早期に防除する。
ミナミキイロアザミウマ	定植時または生育期	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤー1粒剤# 3kg/10a オンコル粒剤5 定植時 6～9kg/10a 生育期 9kg/10a コテツフロアブル 2000倍	#アザミウマ類での登録
ミカンキイロアザミウマ	生育期	・ 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤# 1000～2000倍 カウンター乳剤# 2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 ベストガード水溶剤 1000倍 ファインセーブフロアブル# 2000倍	#アザミウマ類での登録
マメハモグリバエ	生育期	・ 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤 2000倍 カルホス乳剤 1000倍 ベストガード粒剤 2 g/株	
オオタバコガ	生育期	1. 施設の側面および裏面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 2. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF 1000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 プロフレアSC 2000～4000倍 ロムダンフロアブル 1000倍	

キ

ク

## キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハダニ類	生育期	1. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 サンマイトフロアブル 1000倍 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 テルスターフロアブル 4000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤を使用する（くん煙剤の項参照）。	高温、乾燥時に多発する。 ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので、同一薬剤の連用を避け、数種類の薬剤を選び輪換散布を行う（ハダニ類防除薬剤の項参照）。葉裏にも十分散布する。 *花き類・観葉植物での登録
キクモンサビダニ（紋々病）	定植前	1. 発病株から挿穂をとらない。 2. 摘芯した芽を処分する。	
ネグサレセンチュウ	定植前	1. 土壌消毒を行う（土壌消毒の項参照）。 2. 次の薬剤のいずれかを全面施用し、土壌混和する。 アドバンテージ粒剤 10～20kg/10 a ネマトリンエース粒剤 20～25kg/10 a	
ハガレセンチュウ	定植前	1. 連作をさける。連作する場合は被害葉を取り除く。 2. 発生した圃場から採芽しない。	
その他の病害虫		根頭がんしゅ病、半身萎凋病、葉腐れ症（リゾクトニア菌）、キクキンウワバ、キクスイカミキリ、キクヒメタマバエ	